

中田

上沼小で生活習慣病予防事業



▲妖怪ウォッチの曲で楽しく体操する児童たち

食べ物を学び、健康管理

上沼小学校(田辺昭浩校長)では12月16日、児童への生活習慣病予防事業を実施。4年生児童と保護者ら33人が参加しました。市内児童の肥満傾向割合は、全国と県の平均を上回っています。学習会では始めに、「力の基となる食べ物」「血や肉になる食べ物」「体の調子を整える食べ物」について説明。その後、バランスの良い食事の献立を学びました。最後は人気アニメ「妖怪ウォッチ」の曲「ダン・ダンスドゥビ・ズバー」で体操。チョコレートひとかけら分のカロリー(約23キロカロリー)を楽しく消費しました。

迫

東佐沼幼稚園で交流会を開催



▲ハンドベルでは「Let It Go」を演奏し、園児たちと一緒に歌いました

佐高生が児童教育を学ぶ

東佐沼幼稚園(高橋寛子園長)では12月12日、クリスマス交流会を開催。佐沼高校のフードデザイン科目を専攻している3年生21人が園児と交流しました。交流会は同校が行っている「親になるための教育推進事業」の一環で開催されました。本年度5回目となる交流会では、高校生がマジックやハンドベル演奏を披露。ハンドベルでは「Let It Go」を演奏しながら、園児たちと一緒に歌いました。交流会の司会を務めた菅野まいさん(迫町大浦)は「とても楽しかったです。子どもたちに分かりやすく説明するのが難しかったです」と話していました。

お正月の遊びって楽しい

子育て支援事業「たんぽぽ広場」が1月8日、豊里子育て支援センターで開催。未就学児童とお母さん、おばあさんが参加し、みんなで正月遊びをしました。参加者は、福笑いやかた取り、紙コップで作ったけん玉などをして楽しみました。福笑いは、先生手作りのアンパンマンとバイキンマンの顔。子どもたちはお母さんたちと一緒に「ここかな?」と目や鼻などを並べ、かわいい顔が出来上がると「できたね」と喜んでいました。部屋のあちこちで笑い声や楽しそうな話し声が聞かれ、にぎやかな一年の始まりとなりました。

子育て支援の「たんぽぽ広場」

豊里



▲「バイキンマン」の福笑いをうまく完成させ、手をたたいて喜ぶ児童

町のさらなる飛躍を祈願

1月9日、新年をお祝いする新春懇談会が登米町観光物産センター「遠山之里」を会場に開催。町内会長や町内の事業所、行政関係団体などから、約90人が参加しました。懇談会では、交通事故ゼロ日数の継続や、市合併10周年を迎えさらなる飛躍などを祈願しました。祝宴では、登米謡曲会が能楽の「式三番」と「仕舞」を披露。華麗な舞に、会場から大きな拍手が送られました。参加者は、伝統芸能「登米能」を大いに楽しみながら、新年の抱負を語り合いました。

登米町内で新春懇談会を開催

登米



▲登米謡曲会の華麗な舞に会場から大きな拍手が送られました

米山

よねやま保育園で「もちつき」



▲園児たちが交代で「餅つき」を体験しました

力を合わせてペタンコ

よねやま保育園(千葉慶一園長)では1月8日、「もちつき大会」を開きました。もちつき会は、子どもたちに正月行事を体験してもらおうと同園で毎年開催しているものです。当日は、6升のもち米を用意。4歳児と5歳児の園児たちが交代で、きねと臼を使った餅つきに挑戦しました。園児たちが喜んで餅をつく姿を見守る千葉園長「家庭でほとんど見られなくなった餅つきを体験する良い機会です」と目を細めていました。つき上がったお餅は、雑煮やあんこ餅などにして、園児みんなでおいしくいただきました。

東和

米谷公民館で世代を越え交流



▲餅つき大会では、子どもたちも一緒に餅つきをしました

遊んで食べて親睦深める

米谷地域づくり推進協議会(荒川進会長)は12月20日、米谷公民館で「紙ヒコキ飛ばし&もちつき大会」を開催しました。この事業は、米谷地域の小学生と中高校の世代間交流が目的です。紙ヒコキ飛ばしでは、地域の高齢者や東和中学校のジュニアリーダーが講師となり、小学生に作り方を教えました。参加者は、作った紙ヒコキで飛行距離や滞空時間を競い合いながら、楽しんでいました。もちつき大会では、子どもたちと一緒に餅つき。お餅は、地域のお母さんたちがおいしく調理し、みんなでお腹いっぱい食べました。